



やまがた

令和2年7月

No. 133

議会だより

発行 〒390-1301 長野県山形村議会 (代表 三澤一男)

編集 議会広報編集特別委員会 TEL0263-98-3111 FAX0263-98-3078



第2回 議会定例会

新型コロナウイルスに対応予算 2ページ

○ 一般質問の要約 3～4ページ

○ 委員会報告 5ページ

○ キャッチボール 6ページ

6月1日より 小学校平常授業再開
新1年生も初めての給食を食べて下校

令和2年

第2回定例会

新型コロナウイルスに対応予算

第2回定例会を6月5日に開会し、16日までの12日間開催した。

報 告

- 令和元年度山形村一般会計継続費繰越計算書の報告について
- 令和元年度山形村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について

承 認

- 山形村税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて
- 令和2年度山形村一般会計補正予算（第1号）の専決処分の承認を求めることについて
- 令和2年度山形村一般会計補正予算（第2号）の専決処分の承認を求めることについて

同 意

- 山形村固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて
- 農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて

議 案

- 南竹原・竹田原連絡班集会施設用地の負担付寄附の受け入れについて
- 長野県町村公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の減少及び規約の変更について
- 山形村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について
- 山形村国民健康保険条例の一部を改正する条例について
- 山形村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について
- 山形村介護保険条例の一部を改正する条例について
- 山形村公民館条例の一部を改正する条例について
- 令和2年度山形村一般会計補正予算（第3号）
- 令和2年度山形村国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- 令和2年度山形村介護保険特別会計補正予算（第1号）

新型コロナウイルス関連予算

◆ 総額 9億6千7百5万5千円

主な支出

特別定額給付金給付・商工業振興・子育て世帯支援・児童用端末機整備等の事業



ソーシャルディスタンスを保ち議場にて常任委員会を開催

一般質問

議員5人が
村政を問う

定例会の一般質問は、多岐にわたる新型コロナウイルス感染症の対応業務を優先する状況下を考慮し、次期定例会に先送りしても猶予のある質問内容は見送

った。
6月8日に5議員が通常より時間短縮(60分→40分)した範囲内ではあったが活発な議論が交わされた。

新型コロナウイルス感染症がもたらした
村の停滞する経済などへの対応は

長 村独自の支援策は、実態調査や情報収集をしつつ、どのような施策が有効か検討する。



百瀬 章 議員

Q ウイルス禍において、指定管理者である(株)ドリームホテルのスカイランドきよみずの運営への影響は。

A 塩尻市、安曇野市や大町市で旅館ホテルの運営、松本市で飲食店を営んでいる。ビジネスホテルは5月の連休以降、旅館は6月から再開している。飲食店は部分休業をしつつテイクアウトの営業を行なっていた。計画よりスカイランドきよみずの空調工事が早く進んだため、7月末までとしていた休業予定を早めて7月3日から営業を再開す

る予定で準備している。

Q 山形村制度資金の利子補填をする考えは。

A 商工業振興のため設置されている融資制度で、現在は利子補填を行なっていない。財政状況や事業者のニーズを把握した上で、預託先の金融機関等と制度の拡充が図れるよう検討している。

Q デマなどで村民が不利益を被ったり、人権侵害となることへの対応は。

A 松本保健所管内で新型コロナウイルス感染症の罹患者が発生する中、多くのデマが流れた。行政が直接取り締まることはできないので、村民に村が発信する正確な情報に基づいた冷静な対応をお願いしていくほかない。

その他、「職員の分散出勤のデメリット、感染症拡大下の避難所対応」などについて質問した。

ソーシャルディスタンスに伴う
「少人数学級対応」への展望

教育長 感染防止対策で安全を確保しつつ検討する



大月 民夫 議員

Q 現状の小学校教室スペースで、国の基準を満たす許容人数は何人か。

A 児童生徒の座席の間隔については最低でも1メートルを目安の推奨に対しては40人が可能。可能な限り2メートルを目指す指針では20人と想定している。

Q 今後の動向にもよるが、許容人数より実態数がオーバーした場合の対処法は。

A 現在のところ許容人数を超える状況には至っていないが、もし超える事態が生じた場合は、感染症対策を徹底しても、なお感染リスクが非常に大きいときは、教室を分けての授業実施や、分散登校なども考えていかざるを得ない。

Q 少人数学級編成への検討着手は。

A 国、県の動向も注視しながら、財源の確保を含め長期的視野に立って検討したい。授業再開にあたって衛生管理面での取り組み状況は。

Q ①健康観察カードの提出 ②手洗いの徹底 ③咳エチケット ④換気の徹底

⑤身体的距離の確保を重点項目として児童の安全確保に臨んでいる。

オンライン授業(学習)の取り組みを

教育長
有効的な学習支援の方法であると考えている



春日 仁 議員

Q 今後、長期休業(休校)になった場合、オンライン授業(学習)の導入は。

A 学校休業(休校)期間であっても教育効果を高めた、子どもたちの学びの保障に取り組んでいくことが必要だと考えている。子どもたちが、興味・関心を持って学びに向かうことができるよう、様々な手段を講じていくことが必要であり、オンライン学習も有効的な学習支援の方法であると考えている。情報化教育の一層の推進に向けて、ハード面運用面の環境整備を積極的に進めていきたいと考えている。

Q 更なるコロナ禍対策・支援を(インフルエンザ予防接種の補助は)。

A 今年、新型コロナウイルス感染症の影響で、医療機関の負担は大変大きなものとなっている。コロナ禍により減収になる世帯の増加も見込まれ、予防接種を受けたくても、できない方が多数出ることも考えられる。インフルエンザ予防接種の補助制度を設けた場合に、医療機関においてどのような影響が出るのか、できるだけ早い時期に結論を出したいと思う。

いちいの里入浴休止での状況調査は

村長
保健師や保健福祉課職員が訪問や電話で



大池 俊子 議員

Q 緊急事態宣言が4月16日全都道府県に拡大され、いちいの里の一般入浴が休止になった。利用者の中には、高齢者で家庭風呂がなく途方に暮れる人も出た。状況調査及び緊急事態時のいちいの里の風呂・デイサービス終了後の利用はできないのか。

A 宣言により介護予防事業が全面的に中止となり、入浴や生活全般についての相

新型コロナウイルス流行時における複合災害対策は

村長
感染症と自然災害の双方を想定した対策強化と防災訓練の検討が必要

Q 新型コロナウイルス対策用品の備蓄状況は。

A 消毒液類やマスクを備蓄している。今後、新型コロナウイルスを備蓄している。今



小出 敏裕 議員

Q 避難所での新型コロナウイルス対策は。

A 3密を回避し、十分な換気ができる場所や専用スペースの確保が必要と考え、

談等を保健師や職員が訪問や電話をした。入浴に関しての相談は個別に対応した。デイサービス終了後の利用については、クラスター対策として、利用者の選定や利用の中止を求める事業所もある中で、現実的ではない。

Q 新型コロナウイルスによる新たな生活保護申請の発生は。さらに生活福祉資金等の利用状況は。

A 生活保護の新規申請はない。緊急小口資金は12件、総合支援資金は4件となっている(6月1日現在)。

Q 新しい生活様式への村づくりの構想は。

A 山形村は「3密」を避ける生活も可能であり、人口増加策の一つとしても、農村移住や田園回帰の促進も必要であると考えている。

テントや間仕切り、消毒液などを整備する。また、安全を確保した上での在宅避難や知人・親戚宅など、避難所以外への分散避難も想定しておく必要がある。

Q 新型コロナウイルス感染症を想定した複合災害に対する避難訓練の予定は。

A 総合防災訓練は、新型コロナウイルスの影響で、例年どおりの実施は難しいと考える。今後は、感染症と自然災害を合わせた複合災害防災訓練を検討する必要がある。

Q 防災訓練を行なわない場合、避難所での生活方法をどのように村民に周知させるか。

A 広報などで住民へ避難時の注意点や避難所での生活、防災情報を発信していく。

常任委員会報告

申し合わせにより、4月より常任委員会構成が変更しました。

総務産業常任委員会

委員 長	竹野 入
副委員 長	新 居 恒
委員	上 條 倫 禎
〃	百 瀬 昇 一
〃	百 瀬 章
〃	三 澤 一 男

福祉文教常任委員会

委員 長	春 日 敏 仁
副委員 長	小 出 裕 子
委員	大 池 俊 夫
〃	大 月 民 夫
〃	小 林 幸 司
〃	福 澤 倫 治

総務産業常任委員会

当委員会では「総務課」会計・消防防災・総務・管財・財務「企画振興課」地域振興・情報政策「税務課」課税・徴収「産業振興課」農業振興・商工労政・観光・林務・耕地「建設水道課」建設建築・上下水道 5課からの議案審査や付託された陳情・請願書の審査も行なう。議会閉会中も所管の事務調査を行なう。

- ① 地域づくり
- ② 財政運営

福祉文教常任委員会

当委員会では、主に住民課・保健福祉課・子育て支援課（保育園）・教育委員会関係からの議案審査を行なっています。その他に付託された陳情・請願書の審査も行ないます。

今後2年間の委員会独自の活動計画としては、次に挙げる調査研究などを行ないます。

- ① 「ふるさと伝承館」の跡地利用に関する調査研究
- ② 長期休業（休校）による環境変化がもたらす「児童の学業への影響」と、心のケア問題に関する調査研究
- ③ 村内の介護福祉施設や公共施設等の視察、先進地への視察
- ④ 子育て支援に関する調査研究
- ⑤ 障がい者・高齢者福祉に関する調査研究
- ⑥ 令和3年度の介護保険制度改定に向けての

- ③ 消防・防災・防犯事業
 - ④ エポック館の運営
 - ⑤ 税務
 - ⑥ 土木・河川事業
 - ⑦ 簡易水道事業・上下水道事業
 - ⑧ 農業振興・林務・耕地事業
 - ⑨ 商工労政・観光事業
- この他にも、問題を提起されたもの等を解決するため村内外への視察を行なう。

調査研究（山形村の高齢化率は28.9%ですが、村内のデイサービスや介護支援事業所などの廃止・休止の影響は大きいものがあります）

- ⑦ 第8期介護保険事業計画の開始（令和3年4月）に向けての調査研究
- などを予定しています。



私の一言



やまがたむら

(上天池) 笹川 英樹

朝日村から山形村に移り住み20年が過ぎました。隣村からなので違和感なく暮らせています。山々の緑、雪化粧、自然に恵まれ過ごせることに感謝です。

私が山形村に来た当初は、スポーツに熱気あふれ、公民館事業に活気あふれている頃だったような気がします。早起き野球・ナイターソフト・消防団・村民大運動会、盛んに参加させていただきコミュニケーションを図り山形村の村民として、充実して暮らせています。最近では、時代の流れと共に色々なものが簡素化しつつあります。悪いことではないのですが、ちよっぴりさみしい気がします。

しかし最近では、温暖化の影響なのか異常な降雨や松枯れ、また小雪の影響による砂漠化砂ぼこり、異常気象による環境問題が深刻だと思われまます。

これからは、時代の流れの変化に敏感に対応できる村を望むとともに、人と人とのつながりを大切にす村にと希望します。

0歳〜高齢者にまで安心して暮らせる村
「山形村!!」



山形村民になりました

(小坂) 上條 奈々恵

札幌で生まれ育ち、大学卒業後好きな阪神圏で看護師として高度医療に携わる中、テント泊・クライミング・家庭菜園に夢中になりました。

好きを追求した結果、山に囲まれ自作野菜を食べる生活に憧れ現代文化の恩恵で農家に嫁にきました。

常会活動・冠婚葬祭・農業・住環境、生活の全てが変わり慣れるのに必死でしたが、好きな景色・美味しい食べ物・農家さんたちの屈託ない笑顔に癒され、1年あまりが過ぎました。

生活に少し慣れ、今後は農業を学ぶだけではなく、山形村の歴史や文化に触れていきたいと思っています。



編集後記

新型コロナウイルスで、死に至る人もいれば、発症しなくて自覚症状もなく人に感染させてしまうこともある、とても厄介な感染症だ。確実なワクチンができ、安心して暮らせる日常が戻ってきてほしい。

上條 倫 司

発行責任者

議長 三澤 一男

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 上條 倫司 |
| 副委員長 | 小林 幸司 |
| 委員 | 春日 仁 |
| 委員 | 新居 禎三 |
| 委員 | 大月 民夫 |
| 委員 | 福澤 倫治 |

